

2007.09

モザンビーク共和国



安全対策巡回指導結果報告書

安全対策チーム
(鈴木)

目次

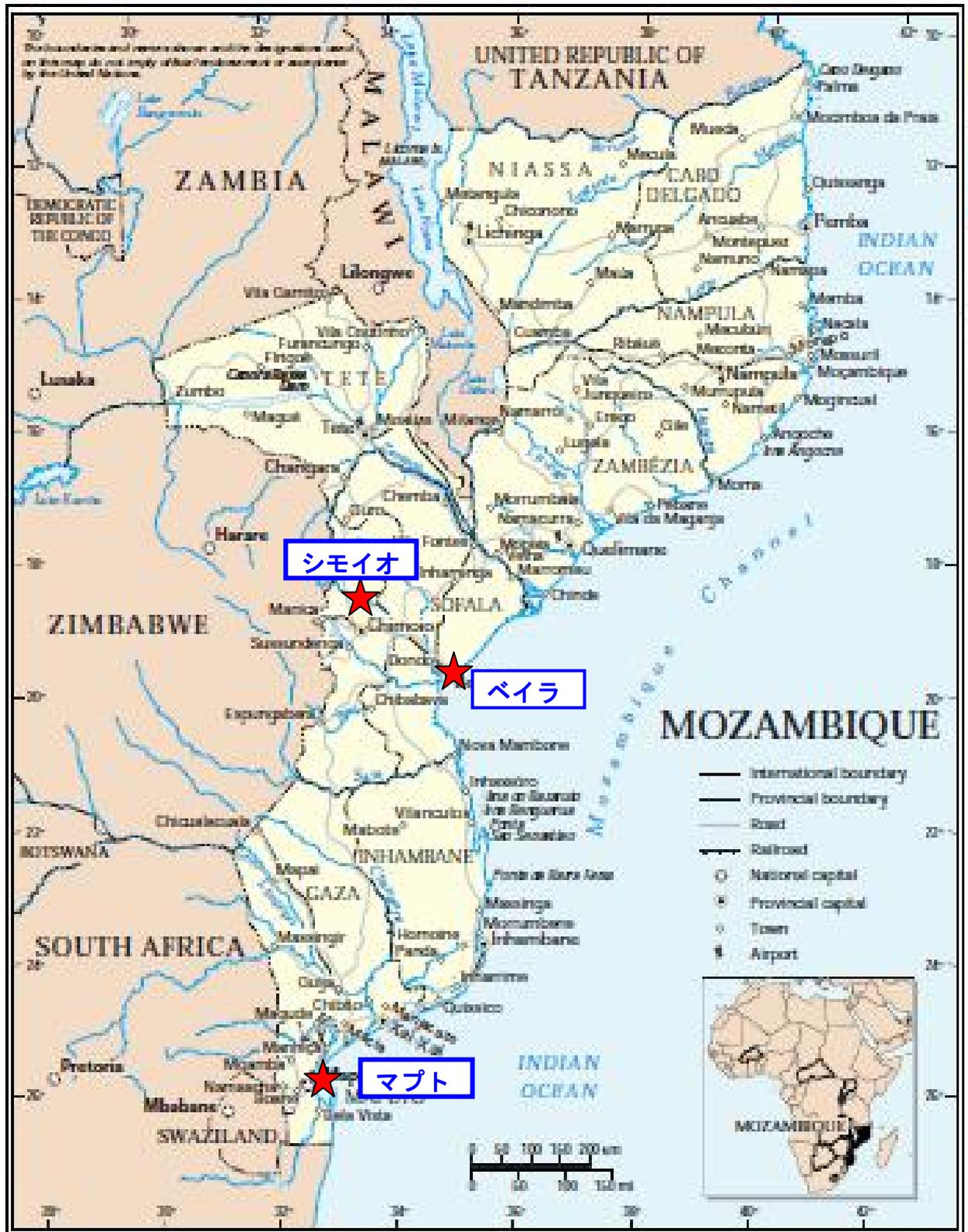
日程表	1
モザンビーク共和国巡回指導先(地図)	2
第1 治安情勢	3
1 治安状況	3
2 体感治安	4
第2 JICA関係者の犯罪被害実態	7
1 モザンビークにおける犯罪被害実態	7
2 犯罪被害増加の要因	7
第3 安全対策推進状況	8
1 事務所の取り組み	8
2 緊急事態に対する取組と通信手	9
3 安全対策クランク	9
4 大使館との関係	10
第4 JICA関係者の住居等点検と安全指導結果	10
1 点検実施数	10
2 評価基準	10
3 点検結果	10
4 総合評価	10
第5 安全対策セミナーの開催	11
別添1 在留邦人の犯罪被害(大使館作成)	12
別添2 モザンビーク共和国における犯罪被害実態と対策	14
別添3 モザンビーク国専門家・ボランティア配置図	15
別添4 モザンビーク事務所緊急連絡網	18
別紙1 事務所・住居等安全点検結果・評価基準	19
1 JICA事務所	20
2 隊員連絡所	26
3 橋本賢子・佐藤香織隊員住居	29
4 斉藤肇・野辺理恵隊員住居	33
5 松本岐・高野一馬隊員住居	37
6 吉田有希・志和久恵隊員住居	40
7 隊員居住候補家屋	45
別紙2 平成19年度安全対策連絡協議会	
○日程表	
○ケース・スタディ	
○モザンビークにおける安全対策レジュメ	
別紙3 モザンビーク安全対策マニュアル	

安全対策巡回指導調査団日程表

2007.6.28作成

	日付	時間	移動予定	活動内容	宿泊地	備考
1	7月16日 月	9:35 10:40 11:30 12:00 13:15 15:00 18:10	ヨハネスブルグ発 マプト着	(中村調整員) モザンビーク事務所打ち合わせ (伊藤所長) 昼食 警察署訪問 (バラテ安全対策クラーク・中村調整員) マプト市内視察 (市場・バスターミナル) ホテル着	マプト AVENIDA (258)1-492-000 住所Avenida Julius Nyerere, 627	SA142
2	7月17日 火	6:45 8:35 9:30 11:00 12:00 12:40 15:00 18:00	マプト発 シモイオ着 シモイオ発 ベイラ着	橋本隊員+佐藤隊員住居点検 斉藤隊員+野辺隊員住居点検 昼食 松本隊員+高野隊員住居点検	シモイオ ベイラ Hotel Tivoli Beira (258)3-320-300 住所Av. de Bagamoio, 363	TM2220 (借上車両)
3	7月18日 水	7:45 9:00 12:40 13:50 14:30 16:00 18:00	ベイラ ベイラ発 マプト着 ホテル着	吉田・志和隊員住居点検 隊員居住候補住宅 (昼食) マプト危険地帯視察 隊員連絡所、事務所点検	マプト AVENIDA (258)1-492-000 住所Avenida Julius Nyerere, 627	(借上車両) TM151 (公用車)
4	7月19日 木	8:00 17:00	マプト	安全対策連絡協議会 午前：ケース・スタディ (事務所) 午後：安全対策に関する講義	マプト AVENIDA (258)1-492-000 住所Avenida Julius Nyerere, 627	
5	7月20日 金	9:30 9:40 10:30 11:30 13:30 16:30 18:30	ホテル発 ホテル着	モザンビーク大使館表敬訪問 (大使) モザンビーク大使館表敬訪問 (領事) 事務所打ち合わせ (事務所点検) 報告書作成 調査団総括	マプト AVENIDA (258)1-492-000 住所Avenida Julius Nyerere, 627	(公用車)
6	7月21日 土	9:00 11:40 12:50 16:45	ホテル発 マプト発 ヨハネスブルグ着 ヨハネスブルグ発		機中	SA143 SA286
7	7月22日 日	12:15 14:50 20:00	香港着 香港発 成田着			JL732

モザンビーク共和国巡回指導先



モザンビーク事務所巡回指導結果

第1 治安情勢等

1 治安状況

(1) 治安状況

モザンビークは、1975年の独立直後から内戦となり、1992年の和平合意が得られるまでの15年以上の長きに及び、この間国内のインフラが破壊され、又多数の農民が土地を捨てて難民化した。内戦終結後、国連平和維持活動を経て、1994年、1999年に実施された大統領、国会議員選挙は大きな混乱もなく乗り切り、シサノ大統領の下で、自由主義経済を積極的に推し進め大洪水のあった2000年を除き7%以上の経済成長を達成した。

2002年7月にはアフリカ連合(AU)首脳会議を首都マプトで開催するに至り、アフリカ全土に見事な復興と経済成長を見せつけた。

その後の2004年12月の大統領、国会議員選挙も平穩に実施され、与党フレリモ党公認のゲブーザ候補が大統領に選出されて2005年2月に就任し、前シサノ大統領から何ら問題なく政権移譲がなされ、現在は政治面での混乱要因はなく政情は安定した状況下にある。

しかしながら、南アフリカをはじめとする外国資本の投下や復興支援対策により経済成長を成し遂げてはいるものの、その恩恵は、首都マプトをはじめとする大都市や一部の富裕層に限られ、貧富の差が拡大し、地方経済の立ち遅れ、都市への人口流入、失業者の増大を招き都市部の治安の悪化をもたらしている。

また、これに加え、昨年5月から実施された、南アフリカとの査証免除協定(ビザ不要滞在期間30日)により往来が自由となり、これに伴い犯罪者が入り込んできており(主に首都マプト周辺)、更には、隣国ジンバブエの内紛による地方都市シモイオへの人口流入が見られるなど治安の悪化を加速させている。

(2) 一般犯罪情勢

経済的には高い成長を続けているものの前述したとおり、貧富の差が増大し、都市部への人口流入に伴い、都市部での犯罪が増加している。とりわけ首都マプトでの犯罪増加が著しく、「すり・置き引き、ひったくり」はもとより「銀行・商店強盗、カージャック、路上強盗、押し込み強盗、空き巣」等が頻発しており、当国における犯罪の4分の1は首都マプトで起きていると言われている。

犯罪の増加について警察関係者は、

- 銃器使用犯罪が著しく増加しており、路上での銃器使用(けん銃等)が多く、南アフリカからの流入銃と内戦時の未回収銃が使用されている。(警察本部副司令 ORDE 氏)
- マプトでは銃器使用犯罪の防止が最大の課題である。(警察本部防犯部長 BALATE 氏)
- 南アフリカは2010年ワールドカップ開催に向けて犯罪者の追い出しにかかっており、ビザ無し入国可能なモザンビークに流れてきている。これらの者とモザンビークの犯罪者に繋がりがあり連携して犯罪を行っている。特に、木曜から土曜日の間が最も危険である。(防犯部長 BALATE 氏)
- 南アフリカとの査証免除協定が大きく影響している。内務省によれば南アフリカから毎週約600人のモザンビーク人が不法滞在者として強制送還されてくる。これらの者が銃を持ち込み犯罪に走っているケースが多い。マプト州と首都マプトが最も影響を受けている。また、地方都市でも犯罪の増加が見られ、ジンバブエとの国境の町シモ

イオも影響を受けており今後注意すべきである。(国際部長 BALATE 氏)

○ シモイオにはジンバブエからの流入者もいるが、現在のところコントロールできる状況下にある。国境付近で銃器使用ジンバブエ強盗団による事件が2件発生しているが、シモイオ市内での発生はない。犯罪としては「すり」が多い。(シモイオ警察署長)

○ 性的犯罪被害は、マプト第1警察署管内(マプトのダウンタウン、繁華街を管轄)で本年第1四半期(1月~4月)に、レイプ事件が44件(成人対象22件、少年対象22件)発生しており、又性的犯罪に関わる相談が年間1,500件ある。(警察署女性担当官)

と述べており、特に、首都マプト及びこの周辺での銃器使用犯罪の増加が深刻化している。最近の特異な事件としては、

○ 7月11日、深夜 JICA 事務所前の大通りで、数人の武装強盗団がコンピューター販売会社に侵入しようとしたが、警察官に発見され、応援に駆けつけた警察隊と銃撃戦となり2人が逮捕される。

○ 昨年7月5日、日本大使館員が休暇不在中に警備員が殺害され家財を盗まれる事件が発生し、その捜査を担当していた警察官が事件2日後にバーで殺害される。

事件が起きている。

このような治安情勢から、事務所では、「夜間、早朝の不要不急の行動の自粛」「単独行動の自粛」「危険場所への立ち入り禁止」「外出、就寝時の施錠確認」等と呼び掛けて注意を喚起している。

なお、当国では中国人に絡む問題が多いことから、アジア人対象に警察官の職務質問が頻繁に行われているので、中国人に間違われることのないように、身分証(外務省発行 ID カードとパスポートの写し)を携帯することが必要である。

2 体感治安

(1) 首都マプト市

前回巡回訪問時の2004年2月に比べてオフィス街にはホテル等の高層ビルが新築されており市内が一段と整備され活気があるように感じられた。ただ、ダウンタウン地区、スラム街は以前と変わりなく、古い建物や、ゴミの散乱している道路、失業者とみられる者のたむろしている姿が見られる。

街中の風景として変わっているのは、交差点や路上に警察官の姿が非常に多く、しかも、中には自動小銃を携行した女性警察官の姿もあり、これは前回の訪問時には見られなかった事であり、治安悪化に警察が本腰を入れて取り組んでいる姿勢にも見えた。

安全対策クラーク BALATE 氏は、

「昨年7月、問題警察官を大量に解雇して新に警察官を採用した。今後警察官を3倍に増やす予定であり、現在1,200人を警察学校で訓練している。モザンビーク全土の警察官数は約20,000人である。マプト州は、3,500人で内2,500人が首都マプトに配置されている。」と述べている。

市内視察の結果マプト市内の危険地帯としては、

○ ダウンタウン(バイシヤ)…「路上強盗、すり・置き引き、ひったくり、路上駐車の上狙い」に注意

○ 中央市場…「すり、ひったくり、駐車場での置き引き・車上狙い」に注意

- エストレヤ市場(通称泥棒市場)…「すり、ひったくり」に注意
- ダウンタウンの「シャパ(ミニバス)」ターミナル…「すり・置引き、強盗」に注意
- ポラナホテル下の海岸通り…「路上強盗、ひったくり」に注意
- 郊外のコンポーネ市場…「すり、ひったくり、強盗」に注意

が挙げられる。

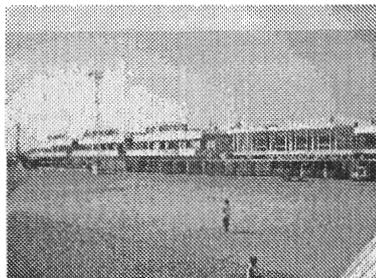
マプト市内においては、外国人や、観光客を狙った路上強盗が、警察の取締まりを尻目に白昼堂々で行われている状況下であり、JICA 関係者も被害に遭遇していることから十分な警戒心が必要である。

なお、この他の場所においても、事務所でも注意を喚起しているように、「夜間、早朝の行動」は極力避けることが肝要である。

【首都マプト】



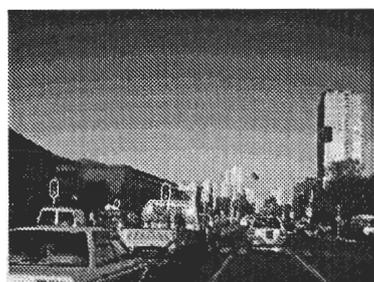
首都マプト市



マプト空港



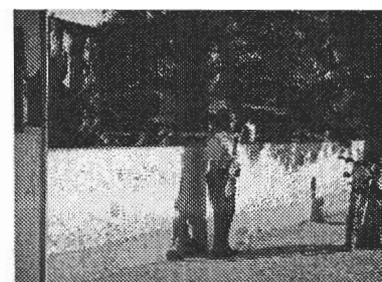
市内のビル街



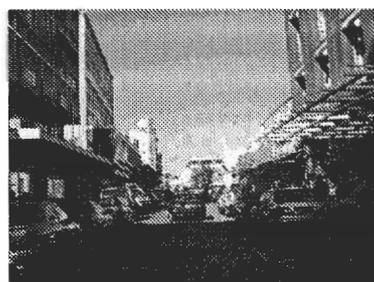
市内中心部



市内中心部のビル街



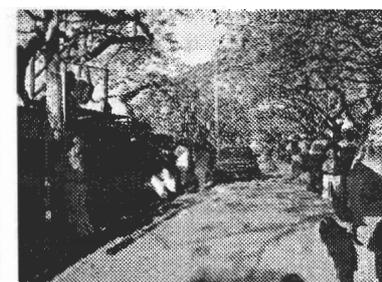
街頭の銃携行の女性警察官



危険地帯ダウンタウン街



中央市場(奥が場内)



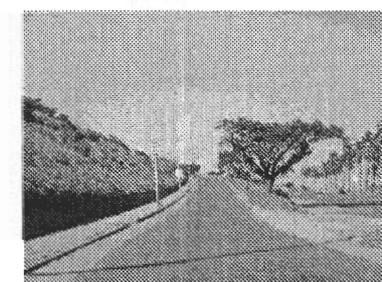
エストレヤ市場(通称泥棒市場)



郊外のコンポーネ市場



ダウンタウンのバスターミナル



強盗被害の多い海岸通り

(2) シモイオ市

街中の道路は広く、ゴミが散乱しているような状態はなく小奇麗な整然と区画された町で、宅地も広くゆとりのある田舎の小都市そのものである。

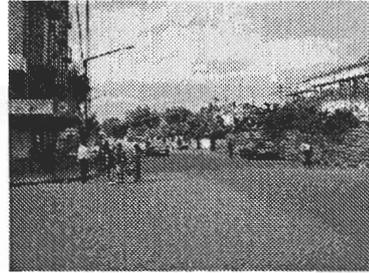
市内の公園等には人がたむろしているような状況はなく、危険と言われるような場所はない。ただ、一般民家にも窓にバーグラーバーを設置しており、侵入盗の多いことが窺える。

当市はジンバブエとの国境近くにあり、港町ベイラからジンバブエへの物資輸送の通過地であり、道路は整備されている。しかし、大型トラックの通行が頻繁とは言えず疎らであり、ジンバブエの政治経済の悪化が影響し、輸送が途絶えがちになっているようにも見られる。

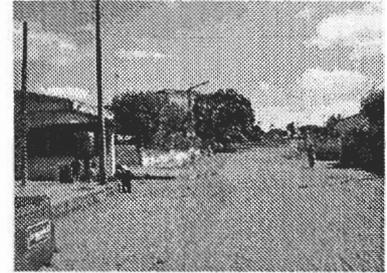
【シモイオ市】



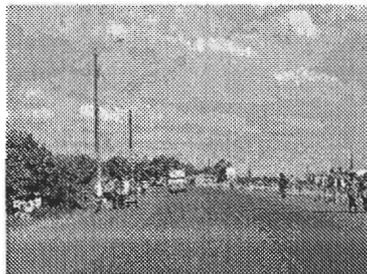
シモイオ空港



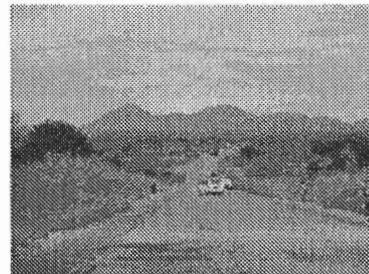
市内(シモイオ警察署前)



裏通りの住宅街



市内道路とシャパ(ミニバス)



ジンバブエに通じる道路



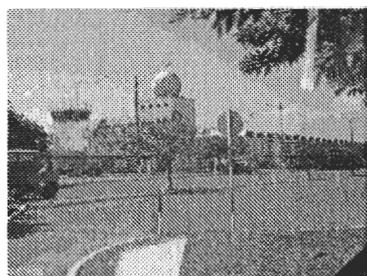
走行中の大型トラック

(3) ベイラ市

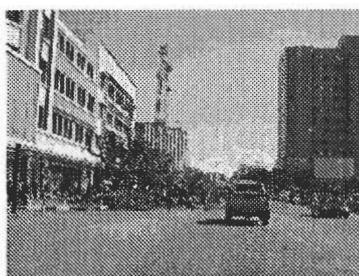
モザンビーク第2の都市であり、町の中心部は整備されており、市場、広場、公園には人が多く活気があるように見られる。貨物輸送基地の港町のわりには、一見したところ埠頭内へのトラックの出入りはあまり多くはない。

昼間帯は一見して危険とは見えないが、犯罪としては、マプトと同様に、ガソリンスタンド襲撃強盗事件等の都市型犯罪が発生しており、昼間帯と言えども人の混雑する場所、裏通りでは十分なる警戒心が必要であり、又夜間は昼間とは一変し、暗がり人がたむろしているなど異様な状態も見られるので、極力不要不急の外出は避けるべきである。

【ベイラ市】



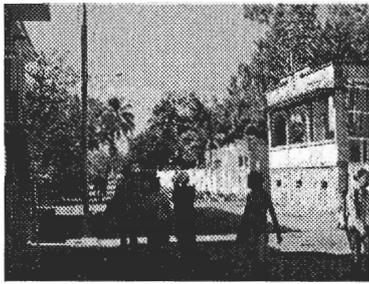
ベイラ空港



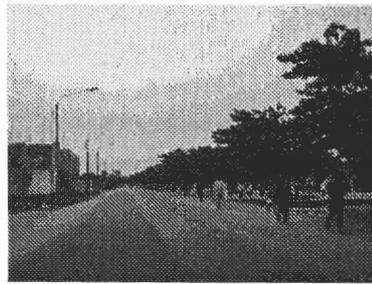
市内中心部



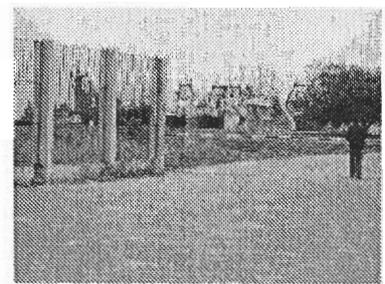
市役所前広場



住宅街



郊外に向かう道路



ベイラ港入口

第2 JICA関係者の犯罪被害実態

1 モザンビークにおける犯罪被害実態

- (1) 平成14年にJICA事務所を開設し、15年度から協力隊員の派遣が始まり、当初は治安状態が悪く殆どの者が何らかの被害に遭遇していたが、治安の回復と関係者の危機意識の高まりによって17年度には2件の被害発生に留まった。しかし、18年度に入り、派遣者の増加に伴って被害件数が増加し出し、その現象は現在も続いている。

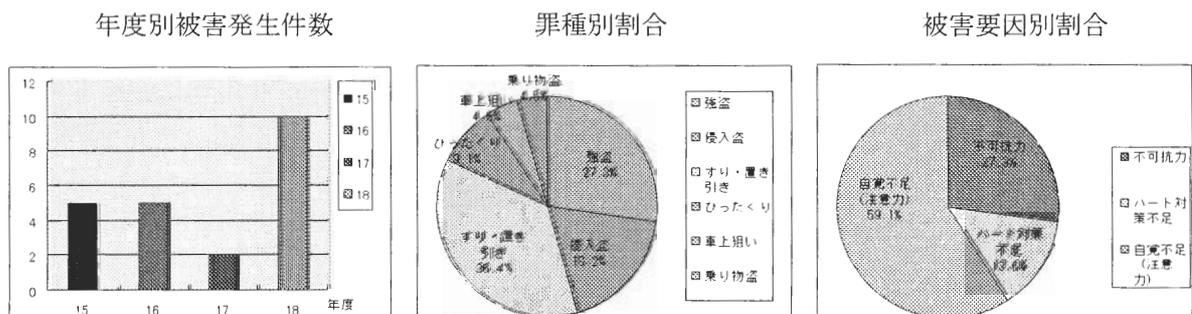
・18年度・・・被害発生数10件10人、被害遭遇率5.9人に1人の割合で遭遇

関係者派遣国中・・・発生数は第18位、

遭遇率は第15位(アフリカ地域ではマダガスカル、ウガンダ、ザンビアに次ぐ第4位)

- (2) 協力隊員の被害が63.7%を占めているが、派遣者数が男女ほぼ同数であるのに女性隊員の被害割合が非常に高く他国にはあまり見られない。また、事務所員の被害遭遇率が高いのも特徴である。
- (3) 過去4年間の被害を見ると強盗被害が多いのが特徴で、アフリカ地域においては南アフリカ(31.2%)に次いで多く、強盗被害の多い中南米のホンジュラス、ブラジル、ジャマイカとほぼ同じ状態にある。しかし、18年度においては被害が増加したものの、強盗被害が皆無でこの状態が続くことが望まれる。
- (4) 被害要因では、不可抗力による被害が多く隣国の南アフリカと同じような状態にあり、凶器として銃が使用されるので、銃に対する対応を熟知しておくことが要求される。特に、専門家、事務所員は、15年度に発生したような「専門家宅押し込み強盗」に注意を要する。

モザンビークにおけるJICA関係者犯罪被害発生実態(平成15年～18年)



2 犯罪被害増加の要因

当国の犯罪被害は、17年度以降急激に増加しているが、現地視察や関係者のアンケート及

び面談結果から、被害要因には次の2点が挙げられる。

(1) 当国は安全な国との意識が高く無防備となっている。

当国の治安状態に関する関係者のアンケート結果を見ると、治安が良いと回答している者が80%(30人中24人)、又不安がないと回答した者が53%(30人中16人)であり、「治安的には問題ない、モザンビークは安全」との意識が高く、無防備で、日本在住時と同じ意識で行動していることに起因しているものとみられる。

これは個々の被害の被害要因(ズボンの尻ポケットやリュックの外ポケットに入れての財布や携帯電話の被害、施錠忘れによる忍び込み被害等)からも窺い知ることができる。

協力隊員安全対策意識調査結果(回答者30人・男性14人、女性16人)

調査項目	総数	男性隊員	女性隊員
治安が良い	24人(80%)	13人(93%)	11人(69%)
治安が悪い	6人(20%)	1人(7%)	5人(31%)
不安感はない	16人(53%)	8人(57%)	8人(50%)
不安感はある	14人(47%)	6人(43%)	8人(50%)

(2) 協力隊員の地方での防犯意識が非常に薄い。

専門家、所員を除く18年度以降の協力隊員の被害地を見ると、危険度の高い首都マップトにおいては全く被害がなく「首都は危険」との意識が働いているのが窺えるが、発生被害10件全てが地方隊員の任地での被害であり、「地方は安全」と気を抜いていることが被害要因とも言える。

第3 安全対策推進状況

1 事務所の取組み

(1) 安全対策取組体制等

安全対策については、伊藤所長が中心となって、所員、調整員が一丸となって取り組んでおり、特に被害の多い協力隊員については、仲間調整員、中村調整員が安全対策クラークを巻き込んで諸対策を推進している。

ただ、安全対策に関するアンケートの要望意見や隊員との面談から、

- 犯罪が発生した際に、なるべく早く、場所、時間、背景等を提供してほしい。単に「犯罪がありました、気をつけましょう。」では意味がない。
- 邦人に関わる事件、事故が発生したら、被害状況等について出来る範囲でSMSやメールで流してほしい。
- 首都は危険であることは承知しているが、「どんな状態にあるのか、どんな点に注意すべきなのか」具体的に情報提供してほしい。

との意見が聞かれ、事務所では「JOCV—MZ News」で情報提供はしているものの、「その頻度が少ない。」ことと「事務所よりも早く関係者間で伝わることが多い。」ことに起因するものとみられる。

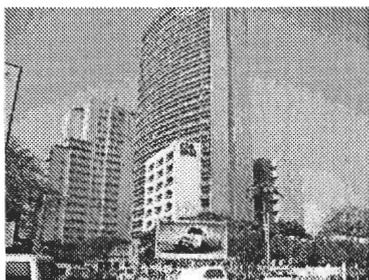
これは、所員の多くは在外経験豊富な者が多く、自己の経験で「このぐらいはよいだろう」との判断が、初めての在外生活者の意識との間に隔たりが生じていることによるとみられ、マンネリ化を避け初心に帰って取り組むことが望まれる。

「安全対策マニュアル」は予想される「犯罪とその防止策」「住居の防犯対策」等につい

て作成されており、関係者の本マニュアルの活用が望まれる。

なお、所長は、関係者に安全対策に関する意識が薄いことを指摘している。

【JICA 事務所】



入居ビル(事務所は5階)



事務所玄関



執務室

(2) 緊急事態に対する取組と通信手段

① 緊急対策マニュアル

緊急連絡網は確立されている。緊急事態発生時の対応要領については「安全対策マニュアル」内に記載されているが、当国で予想される事案を想定(例えば、サイクロン来襲時、重大事故・事件、暴動の発生等)しての、現地対策本部設置時の所員等(事案によっては関係者も含め)の任務分担、対処要領等の初動体制について具体的に作成しておくことが望まれる。

② 通信手段

現在、携帯電話(全関係者に貸与)と固定電話によって通信手段を確保しているが、両回線ともに不通となった場合の補助手段としては、インマルサット1台あるのみである。関係者の配置実態を見ると NIASSA 州を除く各州の州都に派遣されており、各州1箇所に基地局として衛星携帯スラヤ等を配備して非常時の通信を確保する必要がある。

2 安全対策クラーク

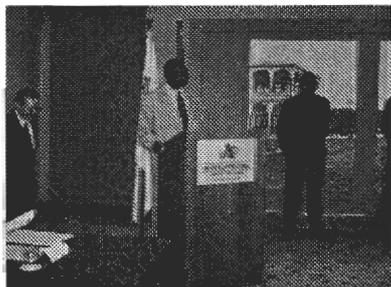
事務所内にデスクを設けて有効に活用している。安対クラーク自身も熱心に取り組んでおり、個々の隊員等の関係者との接触もあり信頼を得ている。

安全対策クラーク BALATE 氏は国家警察本部国際部長に昇進したために多忙となり、思うように事務所に顔を出すことが出来ず、このため同氏は自己の実弟である

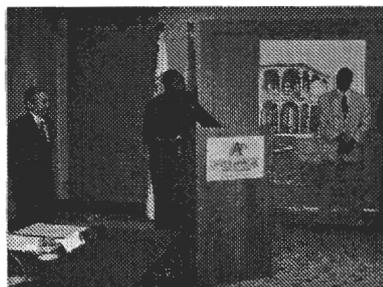
現国家警察本部防犯部長 Alexander BALATE 警視(42歳)

を「自分と同じように使ってくれ」と好意で派遣してくれている。同氏も快く応じており、今回の巡回指導においても同道してくれている。

なお、兄の BALATE 氏と同じく、気さくで、熱心で担当職柄安全対策について十分なる知識、技能を備えており、又警察署等への影響力もある。



安対クラーク BALATE 氏



安対クラーク実弟の Alexander BALATE 氏



3 大使館との関係

大使館とは良好な関係を保持しており、安全対策関係情報については、富田領事(総合警備保障から出向)と情報交換を行っている。

大使を表敬訪問したが、同大使は非常に格式を重んずる方のようにあり、関係保持には難しい面があるように感じられた。

なお、領事とは非常に良好な関係にあり、当国の犯罪実態、統計等に関する情報提供や関係者へのアドバイスを受けている。

第4 JICA関係者の住居等点検と安全指導結果

1 点検実施数

7箇所(JICA事務所、隊員連絡所、協力隊員宅5箇所)

2 評価基準(下記の4段階で評価)

- A・・・現在のままで問題ない。
- B・・・若干の改善を加えれば、現在のままでよい。
- C・・・相当の問題があり、可能であれば転居も考えた方がよい。
- D・・・改善不能の問題があり、転居することが望ましい。

3 点検結果

- ① JICA事務所・・・A
- ② 隊員連絡所・・・A(但し、周辺環境に注意を要する。)
- ③ 協力隊員住居
 - A・・・1箇所(シモイオ 齊藤筆・野辺理恵隊員宅)
 - Aに近いB・・・1箇所(シモイオ 高野一馬・松本峻隊員宅)
 - B・・・2箇所(シモイオ 橋本賢子・佐藤香織隊員宅)
(ベイラ 吉田有希・志和久恵隊員宅)
 - 対策未実施(改装中)・・・1箇所(ベイラ 隊員入居候補住宅)

※ 各戸の点検結果については、別紙1「事務所・住居等点検結果」参照

4 総合評価

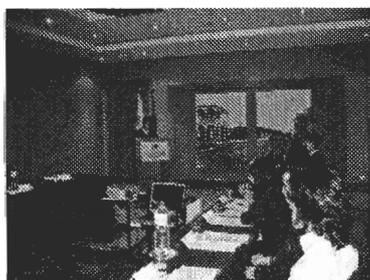
- (1) 事務所は、24階建ての5階に入居しており、地下駐車場を含めてビル自体の警備員が配置され出入者(車)のチェックが行われているなど管理がしっかりしている。
また、事務所の玄関はエアロック方式を採用し、パソコン連動の監視カメラ、録画装置を設置するなど2004年2月の巡回指導時よりもハード対策はより充実しており安全対策は万全である。
- (2) 隊員連絡所は、JICA事務所の裏側約300mのところであり、同家屋は2003年7月「押し込み強盗被害」に遭遇後大々的に対策を講じた専門家宅を使用しており、ハード面の対策は万全に講じられている。ただ、繁華街に接する住宅街であり周辺では「ひったくり、路上強盗」等の被害が発生していることから連絡所出入の際は十分なる注意を要する。
なお、屋内がやや乱雑であり、整理整頓に配慮することが望まれる。
- (3) 隊員の住居は、配属先提供であるが他国に比べて見劣りはせず、住居環境も良く安全対策もほぼ講じられているが、地方隊員の一部住居について、
 - 高窓に鉄格子を取り付けていない。
 - 錠前が破損している。

- 不適な錠前を使用している。 ○ 寝室出入口扉に内鍵を取り付けていない。
等の不備な点がみられるので、各隊員の住居について再点検を要する。
- (4) 一部隊員について、居間、台所、トイレ・シャワー室共用の平屋の独立家屋に男女で居住させている。同性で同居させるべきである。

第5 安全対策セミナーの開催

- 1 実施日時 7月19日 8:30~17:00
- 2 場 所 HOTEL AVENIDA 会議室
- 3 参加人員 52人(協力隊員42人<男性19人 女性23人>、所員8人、専門家2人)
- 4 実施内容
 - 所長挨拶、新構成員の紹介 8:30~9:00
安全対策クラーク 警察本部国際部長 BALATE 氏
同 防犯部長 BALATE 氏
の両名も出席
 - 大使館富田領事の治安情勢説明 9:00~9:40
 - 事務所企画ケース・スタディによる研修 9:45~12:00
<課題>
 - ・サイクロン対策 ・自宅待機、国外退避 ・任国外旅行 ・夜間のバス移動
 - ・同居人とのトラブル
 - 安全対策セミナー JICA 本部鈴木囑託 13:30~17:00
治安状況の視察、住居等点検結果に基づき
「モザンビークにおける安全対策上の問題点と具体的対策」
についてパワーポイントを使用して実施

【セミナー状況写真】



日本大使館富田領事



ケース・スタディ討議中の隊員



JICA 本部鈴木囑託

在留邦人の犯罪被害(平成16年1月～平成19年4月) 別添1

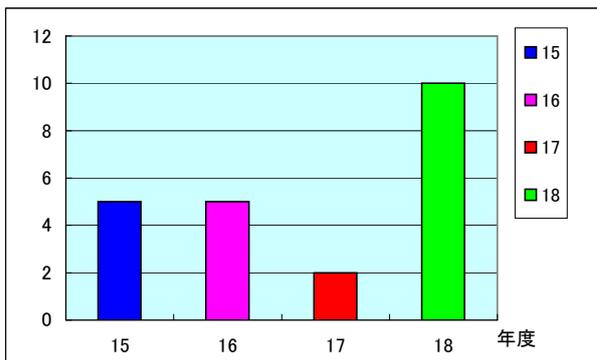
犯罪種別	年	月	日	曜日	時	分	被害者所属	被害者	場所(州)	場所(市)	場所	犯人(人数)	凶器	状況	負傷	被害(物品)	被害(お金)
路上強盗	16年	04月	09日	金	10時	30分	短期滞在者 南ア留学生	男性2名	マプート	マプート	マージナル通り	男3人	小型ナイフ ナイフ等	海岸通りを散歩中に襲われる	なし	時計計 デジタルカメラ クレジットカード	現金(25000円相当)
路上強盗	16年	12月	14日	火	19時	25分	JOCV	男性2名	ザンベジア	キリマネ	ホテル付近	男3人	ナイフ	ホテルからレストランに向かう途中 取り囲まれナイフで威嚇された	なし	携帯電話	現金(金額不明)
路上強盗	17年	03月	25日	水	14時	00分	UNHCR	女性1名	マプート	マプート	ホテルカルドゾン	男1人	ナイフ	ホテル付近の脇道において、 ナイフを持った男に携帯電話、 現金、クレジットカードを強奪された	擦り傷	携帯電話 クレジットカード	現金(金額不明)
車上荒らし	17年	08月	21日	日	09時	30分	日本大使館	男性1名	マプート	マプート	中央市場			車内に同業者がいたが、後ろに 注意を引きつけている間に運転席 付近の携帯電話を持ち去った	なし	携帯電話	
侵入強盗	17年	09月	21日	水	02時	30分	WFWP	女性1名	ソファアラ	ベイラ	自宅	男5人	カシコフ 包丁 鉄棒 のこぎり	玄関の鉄格子2枚と扉をこじ開け、 侵入し扉も開けようとしたが、 現金と回りの物を奪って逃走した	なし	ココロラ20本 魚	現金(金額不明)
ひったくり	17年	10月	01日	土	11時	00分	JICA	女性1名	マプート	マプート	スーパー付近	男1人	オートバイ	自家用車から降りたところ後から 来たオートバイを運転していた男に カバンをひたつられた	なし	携帯電話2台 運転免許証 ID	400米ドル
路上強盗	17年	10月	03日	月	22時	30分	日本大使館	男性1名 女性1名	マプート	マプート	ボラシヨビンガ セター付近	男1人	ナイフ	帰宅中ゴミをささっていた男が突然 刃物を向けバックを引たくり逃走 した	切り傷	クレジットカード 携帯電話 自宅の鍵 カメラ DVD 携帯電話	現金(16米ドル相当)
侵入強盗	17年	12月	13日	火	00時	30分	EFRIPEL	男性1名	マプート	マプート	自宅(アパート)	男7人	拳銃	アパートの階段を登ろうとしたところ 襲われ自宅に侵入された			現金(1400米ドル相当)
首締め強盗	18年	01月	07日	土	08時	30分	JOCV	男性1名	マプート	マプート	ショップライト付近	男2人		大型スーパーの裏通りを歩行中、 2人組の男に挟まれた。驚いて振り 向いた所、首を絞められた	なし	携帯電話 財布	現金(1000円相当)
空き巣	18年	04月	07日	日			JICA	男性1名	マプート	マプート	自宅(アパート)			2泊3日の旅行から帰宅後家の 物が無くなっていて窓、扉、鍵は 壊されていない	なし	パソコン ビデオカメラ 携帯電話	現金(30000円相当)
ひったくり	18年	06月	25日	日	15時	30分	JOCV	女性1名	カーボ デルガド	ペンバ	自宅(アパート)	男1人	ナイフ	帰宅時アパートの階段を登って いた所、後ろからたすき掛けにして いたカバンをひたつられた	手足の打撲	携帯電話	1000MT
侵入強盗	18年	07月	05日	水	07時	00分	日本大使館	女性1名	マプート	マプート	自宅(独立家屋)			館員が休暇中に警備員が殺害され 家の物品が盗まれた	警備員 死亡		
置き引き	19年	02月	01日	木	20時	00分	JICA	男性1名	マプート	マプート	スポーツバー (ムンドース)			スポーツバーにおり、通勤カバンを 床に置いていたが30分後、席を 立ち去った所、無くなっていった		クレジットカード キャッシュカード ID	現金(3000円相当)
空き巣	19年	02月	15日	木			横浜市立大学	男性1名	マプート	マプート	自宅(アパート) 外国人同居人			被害者と同居人が国外旅行して いる間に空き巣に入られた		航空券	現金(金額不明)
侵入強盗	19年	02月	26日	月			JOCV	女性1名	ソファアラ	ドンド	自宅			夜から朝の間に台所の扉(未施錠) が開けられ居間にあったパソコンが 盗まれた		パソコン	なし

モザンビーク国の犯罪被害実態と対策

(平成15年度～平成18年度)

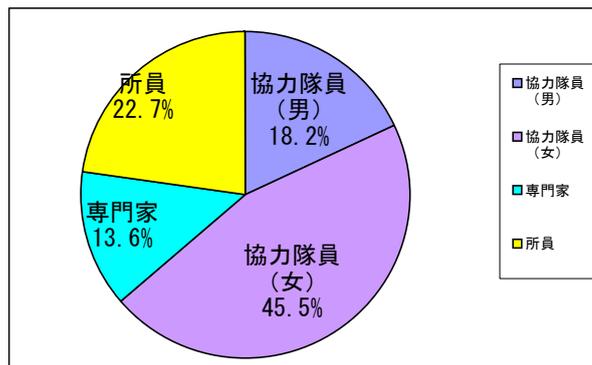
1. モザンビーク国の被害発生状況

(1) 年度別被害発生件数



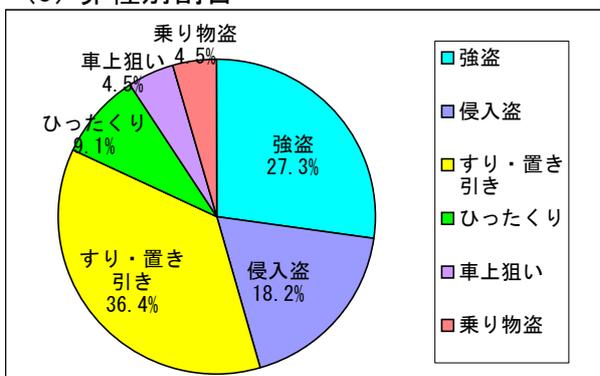
年度	15	16	17	18
件数	5	5	2	10

(2) 派遣形態別被害割合



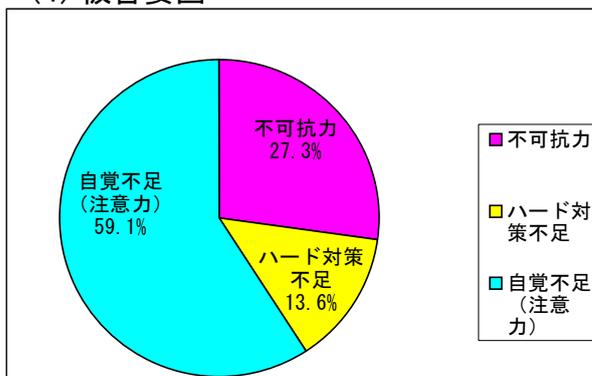
形態	協力隊員(男)	協力隊員(女)	専門家	所員	計
件数	4	10	3	5	22
%	18.2%	45.5%	13.6%	22.7%	100%

(3) 罪種別割合



強盗	侵入盗	すり・置き引き	ひったくり	車上狙い	乗り物盗	合計
6	4	8	2	1	1	22
27.3%	18.2%	36.4%	9.1%	4.5%	4.5%	100%

(4) 被害要因



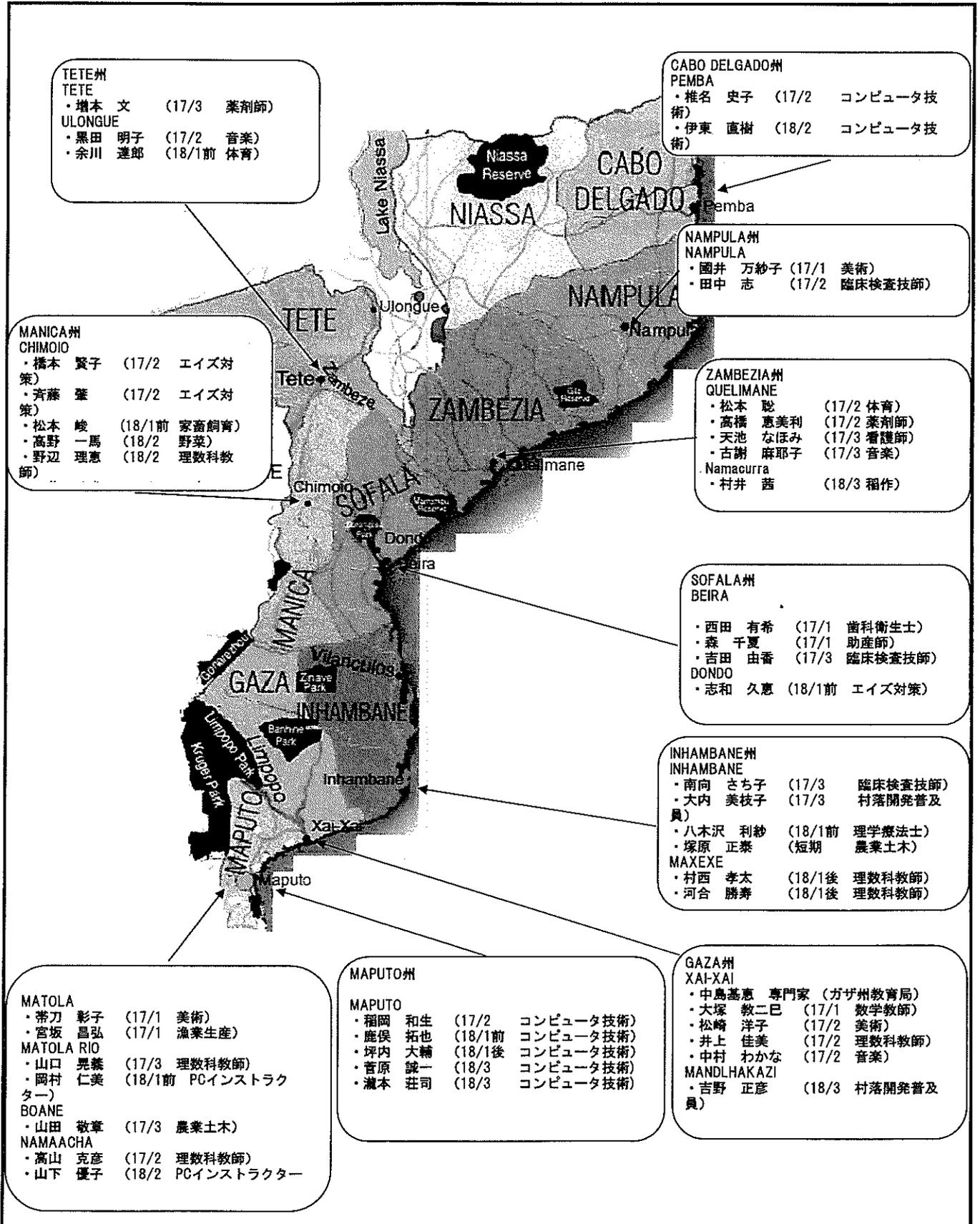
不可抗力	ハード対策不足	自覚不足(注意力)	合計
6	3	13	22
27.3%	13.6%	59.1%	100%

2. モザンビーク国の犯罪被害の特徴と傾向

- (1) 当国の犯罪被害発生数は、15年度、16年度はそれぞれ5件発生し、滞在者あたりの被害遭遇率は15年度1.8人に1人の割合(JICA 全体9.1人に1人)、16年度は3.0人に1人の割合(JICA全体9.1人に1人)で、何れも滞在者が少ないことから非常に高い割合を示していたが、関係者の被害防止努力により17年度は2件の発生に止まった。しかし、滞在者が増加した昨18年度に入り増加に転じ、発生10件、被害遭遇率5.9人に1人の割合となり、JICA関係者派遣国中発生件数第18位、遭遇率15位(アフリカ地域第5位)に位置している。ただ、毎年度発生していた強盗被害の発生がないことは同被害防止に関係者の配慮が窺える。
- (2) 当国の特徴としては、「強盗」被害が27.3%を占めており、殆んどが「**数人組みが小銃や刃物、石等の凶器を所持**」しての犯行で、人通りの多い日中でも発生していることから、危険度の高い国であると言える。単独行動は避け、可能な限り現地の人と行動を共にする等の「被害に遭遇しないための配慮意」が必要である。「すり」被害は財布等の貴重品の収納方法に問題(ズボンのポケット、リュックのポケット等)があり、特に携帯電話は盗まれないように「丈夫なストラップを付けて、目立たないように「首から下げ服の内側に収納、腰のベルトにしっかりと結束」するなどして身に着けておく配慮が必要である。「置き引き」被害は無頓着に置いたり目を離すことにより発生している。荷物は監視の届かないところに置かず、又貴重品は常に肌身離さずに所持し、乗り物に乗車中は「眠らない」等の配慮が必要である。
- (3) 当国の15年度～18年度の派遣形態別被害率を見ると、「**事務所員3.8人に1人、専門家5.7人に1人**」で、協力隊員の6.9人に1人の割合より高い実態にあり、この状態は他国にはあまり見られない。このことは、「**事務所員や専門家が狙われている**」との観点に立って安全対策に取り組むことが要求される。特に、「夜間はもとより日中でも人通りの少ない路上での単独歩行は避け、目的地までは車での移動を心がけ乗降する際には必ず、周囲に配慮し安全を確認してから行動する。銀行等金融機関には決して単独で行かず複数人で行動する。」これらのことに心がけることが肝要である。
- (3) 被害要因は、注意不足によるものが59.1%で、危険度の高い国であることの認識が不足していることの現われと推察されることから、滞在者に対して再度、安全対策に対する意識の高揚を図ることが必要である。また、住居防犯の徹底も望まれるところである。

モザンビーク国 JICA専門家・ボランティア配置図

平成19年6月1日現在



モザンビーク国 ボランティア派遣情報一覧

JICAモザンビーク事務所

平成18年6月1日

隊次	隊員氏名	性別	隊員氏名(英)	職種	派遣期間		州	任地	配属先 省庁	活動先
1	17/2 福岡 和生	Mr.	Kazuki INAOKA	コンピュータ技術	2005/11/28	2007/11/27	MAPUTO	MAPUTO	科学技術省	モザンビーク情報通信学院 MICTI
2	18/1前 鹿俣 拓也	Mr.	Takuya KANOMATA	コンピュータ技術	2006/6/27	2008/6/26	MAPUTO	MAPUTO	科学技術省	モザンビーク情報通信学院 MICTI
3	18/1後 坪内 大輔	Mr.	Daisuke TSUBOUCHI	コンピュータ技術	2006/10/2	2008/10/1	MAPUTO	MAPUTO	科学技術省	モザンビーク情報通信学院 MICTI
4	18/3 菅原 誠一	Mr.	Seiichi SUGAWARA	コンピュータ技術	2007/3/26	2007/3/25	MAPUTO	MAPUTO	科学技術省	モザンビーク情報通信学院 MICTI
5	18/3 瀧本 荘司	Mr.	Sehshi TAKIMOTO	コンピュータ技術	2007/3/26	2007/3/25	MAPUTO	MAPUTO	漁業省	帯細漁業開発機構 IDPPE
6	17/3 山口 晃義	Mr.	Akiyoshi YAMAGUCHI	理数科教師	2006/3/26	2008/3/25	MAPUTO	MATOLA RIO	教育文化省	ネルソンマンデラ中学校 Escola Secundaria Nelson Mandela
7	18/1前 岡村 仁美	Ms.	Hitomi OKAMURA	PCインストラクター	2006/6/27	2008/6/26	MAPUTO	MATOLA RIO	教育文化省	ネルソンマンデラ中学校 Escola Secundaria Nelson Mandela
8	17/1 帯刀 彰子	Ms.	Akiko TATEWAKI	美術	2005/7/11	2007/7/10	MAPUTO	MATOLA	教育文化省	マトーラ初等教員養成学校 IFP Matola
9	17/1 宮坂 昌弘	Mr.	Masahiro MIYASAKA	漁業生産	2005/7/11	2007/7/10	MAPUTO	MATOLA	水産省	マトーラ水産学校 Escola Pesca
10	17/3 山田 敬章	Mr.	Noriaki YAMADA	農業土木	2006/3/26	2008/3/25	MAPUTO	BOANE	教育文化省	ウンベルジ教育センター Instituto Pedagogico de UNBELUZI
11	17/2 高山 克彦	Mr.	Katsuhiko TAKAYAMA	理数科教師	2005/11/28	2007/11/27	MAPUTO	NAMAACHA	教育文化省	ナマーシャ中学校 Escola Secundaria de Namaacha
12	18/2 山下 優子	Mr.	Yuko YAMASHITA	PCインストラクター	2007/1/9	2009/1/8	MAPUTO	NAMAACHA	教育文化省	ナマーシャ中学校 Escola Secundaria de Namaacha
13	18/3 吉野 正彦	Mr.	Masahiko YOSHINO	村落開発普及員	2007/3/26	2007/3/25	GAZA	Mandlhakazi	農業省	農業省ガザ州マンジャカゼ州局 DDA Mandlhakazi
14	17/1 大塚敦二巳	Mr.	Norifumi OTSUKA	数学教師	2005/7/11	2007/7/10	GAZA	XAI-XAI	教育文化省	ジョアキン・チッサノ中等学校 Escola Secundaria Joaquim Chissano Xai-Xai
15	17/2 松崎 洋子	Ms.	Yoko MATSUZAKI	美術	2005/11/28	2007/11/27	GAZA	XAI-XAI	教育文化省	シャイシャイ初等教員養成学校 IFP Xai-Xai
16	17/2 井上 佳美	Ms.	Yoshimi INOUE	理数科教師	2005/11/28	2007/11/27	GAZA	XAI-XAI	教育文化省	シャイシャイ初等教員養成学校 IFP Xai-Xai
17	17/2 中村 わかな	Ms.	Wakana NAKAMURA	音楽	2005/11/28	2007/11/27	GAZA	XAI-XAI	教育文化省	シャイシャイ初等教員養成学校 IFP Xai-Xai
18	17/3 南向 さち子	Ms.	Sachiko NASAKI	臨床検査技師	2006/3/27	2008/3/26	INHAMBANE	INHAMBANE	保健省	イニャンバネ州立病院 Hospital Inhambane
19	18/1前 八木沢 利紗	Ms.	Risa YAGISAWA	理学療法士	2006/6/27	2008/6/26	INHAMBANE	INHAMBANE	保健省	イニャンバネ州立病院 Hospital Inhambane
20	17/3 大内 美枝子	Ms.	Mieko OUCHI	村落開発普及員	2006/3/27	2008/3/26	INHAMBANE	INHAMBANE	農業省	農業省イニャンバネ州局 DDA inhambane
21	18/1後 村西 孝太	Mr.	Kota MURANISHI	理数科教師	2006/10/2	2008/10/1	INHAMBANE	MAXEXE	教育文化省	9月29日中等学校 Escola Secundaria 29 Setembro Maxexe
22	18/1後 河合 勝寿	Mr.	Katsuhisa KAAI	理数科教師	2006/10/2	2008/10/1	INHAMBANE	MAXEXE	教育文化省	9月29日中等学校 Escola Secundaria 29 Setembro Maxexe
23	17/1 西田 有希	Ms.	Yuki NISHIDA	歯科衛生士	2005/7/11	2007/7/10	SOFALA	BEIRA	保健省	ベイラ医療従事者養成学校 ICS Beira
24	17/1 森 千夏	Ms.	Chinatsu MORI	助産師	2005/7/11	2007/7/10	SOFALA	BEIRA	保健省	ベイラ医療従事者養成学校 ICS Beira
25	17/3 吉田 由香	Ms.	Yuka YOSHIDA	臨床検査技師	2006/3/27	2008/3/26	SOFALA	BEIRA	保健省	ベイラ医療従事者養成学校 ICS Beira
26	18/1前 志和 久恵	Ms.	Hisae SIWA	エイズ対策	2006/6/27	2008/6/26	SOFALA	DONDO	教育文化省	ドンド中等学校 Escola Secundaria Dondo
27	17/2 橋本 賢子	Ms.	Satoko HASHIMOTO	エイズ対策	2005/11/28	2007/11/27	MANICA	CHIMOIO	保健省	シモイオ医療従事者訓練セン ター CFS Chimoio

28	18/3	佐藤 香織	Ms.	Kaori SATO	助産師	2007/3/26	2009/3/25	MANICA	CHIMOIO	保健省	シモイオ医療従事者訓練センター CFS Chimoio
29	17/2	斉藤 肇	Mr.	Hajime SAITO	エイズ対策	2005/11/28	2007/11/27	MANICA	CHIMOIO	教育文化省	マニカ州教育文化局 DPE Chimoio
30	18/2	野辺 理恵	Mr.	Rie NOBE	理数科教師	2007/1/9	2009/1/8	MANICA	CHIMOIO	教育文化省	サモラ マシェル中等学校 Escola Secundaria Samora Machel Chimoio
31	18/1前	松本 峻	Mr.	Shun MATSUMOTO	家畜飼育	2006/6/27	2008/6/26	MANICA	CHIMOIO	農業省	シモイオ農業専門学校 Instituto Agrario de Chimoio
32	18/2	高野 一馬	Mr.	Kazuma TAKANO	野菜	2007/1/9	2009/1/8	MANICA	CHIMOIO	農業省	シモイオ農業専門学校 Instituto Agrario de Chimoio
33	17/1	国井 万紗子	Ms.	Masako KUNII	美術	2005/7/11	2007/7/10	NAMPULA	NAMPULA	教育文化省	ナンブラ州文化センター Casa provincial de Cultura da Nampula
34	17/2	田中 志	Ms.	Kokoro TANAKA	臨床検査技師	2005/11/28	2007/11/27	NAMPULA	NAMPULA	保健省	ナンブラ医療従事者訓練センター ICS Nampula
35	17/2	松本 聡	Mr.	Satoru MATSUMOTO	体育	2005/11/28	2007/11/27	ZAMBEZIA	QUELIMANE	教育文化省	キリマネ初等教員養成学校 IFP Quelimane
36	17/3	古謝 麻耶子	Ms.	Mayako KOJA	音楽	2006/3/27	2008/3/26	ZAMBEZIA	QUELIMANE	保健省	キリマネ初等教員養成学校 IFP Quelimane
37	17/2	高橋 恵美利	Ms.	Emiri TAKAHASHI	薬剤師	2005/11/28	2007/11/27	ZAMBEZIA	QUELIMANE	保健省	キリマネ医療従事者養成学校 ICS Quelimane
38	17/3	天池 なほみ	Ms.	Naomi AMAIKE	看護師	2006/3/27	2008/3/26	ZAMBEZIA	QUELIMANE	保健省	キリマネ医療従事者養成学校 ICS Quelimane
39	18/3	村井 茜	Ms.	Akane MURAI	稲作	2007/3/26	2009/3/25	ZAMBEZIA	NAMACURRA	農業省	農業省ザンベジア州ナマクラ郡 局 DDA Namacurra
40	17/3	増本 文	Ms.	Fumi MASUMOTO	薬剤師	2006/3/27	2008/3/26	TETE	TETE	保健省	テテ医療従事者訓練センター CFS Tete
41	17/2	黒田 明子	Ms.	Akiko KURODA	音楽	2005/11/28	2007/11/27	TETE	ULONGUE	教育文化省	アンゴニア初等教員養成学校 IFP Angonia
42	18/1前	余川 達郎	Mr.	Tatsuro YOKAWA	体育	2006/6/27	2008/6/26	TETE	ULONGUE	教育文化省	アンゴニア初等教員養成学校 IFP Angonia
43	17/2	椎名 史子	Ms.	Noriko SHIINA	コンピュータ技術	2005/11/28	2007/11/27	CABO DELGADO	PEMBA	科学技術省	ペンバカトリック大学 U. Catorica Pemba
44	18/2	伊東 直樹	Mr.	Naoki Itoh	コンピュータ技術	2007/1/9	2007/1/8	CABO DELGADO	PEMBA	科学技術省	ペンバカトリック大学 U. Catorica Pemba
45	18/1前	上村 まや	Ms.	Maya KAMIMURA	看護師	2006/6/27	2008/6/26	CABO DELGADO	PEMBA	保健省	ペンバ医療従事者訓練センター CFS Pemba
46	短期	塚原 正泰	Mr.	Masayasu TSUKAHARA	農業土木	2007/3/26	2007/1/29	INHAMBANE	INHAMBANE	農業省	農業省イニャンバネ州局 DPA Inhambane

JICAモザンビーク事務所連絡網

2007. 6. 1

日本大使館
TEL : 21-499819/20
Fax : 21-498957
東京記室 : 82-3272450
今日事務官 : 82-3214260
富田領事 : 82-3258360
ambjapao@virconn.com

所長:伊藤 高
82-3170300
82-5596278
夫人:82-3009415
Ito.Takashi

職員:岡田 麻衣
82-3074510
Okada.Mai

職員:村上真由美
82-3007025 (~6/19)
Murakami.Mayumi

傷病発生時勤務時間内
派遣支援部健康管理センター
0081-3-5352-5582,5483

SOS東京アラームセンター
0081-35210-1515
SOSパリアラームセンター
0033-1-5563-3113

調整員:仲間 和男
82-3209500
夫人:84-8343076

Nakama.Kazuo
調整員:小林 雅子
82-3170240
Kobayashi.Masako

調整員:中村 謙
82-3009432
夫人:82-5551189
Nakamura.Ken

安全対策クラーク
Dias Francisco
Balate
82-3005210
自宅: 21-309986

FAO:木村 真嘉
Kimura Shinga
84-7779943

専門家:中島 基恵
Nakajima.Motoe
84-7476178
自宅 :282-29037
配属先:282-22485
Fax:282-22343

企画調査員:神谷 祐介
82-3079910
Kamiya.Yusuke

企画調査員:下平 明子
82-3254240
Shimohira.Akiko

ES de Joaquim
Chissano XAI-XAI
TEL&FAX : 282-26681
大塚 教二巳
Otsuka Norifumi
82-3916543

IFP XAI-XAI
TEL : 282-25209/22184
FAX : 282-22343
松崎 洋子
Matsuzaki Yoko
82-4056226

井上 佳美
Inoue Yoshimi
82-4056228
中村 わかな
Nakamura Wakana
82-4056232

ES de NAMAACHA
TEL : 21-960097/113
FAX : 21-960098/44
高山 克彦
Takayama Katsuhiko
82-4056231

山下 優子
Yamashita Yuko
82-6222947

Instituto Pedagógico
do UNBELUZI
TEL : 21-77039/100
山田 敬肇
Yamada Noriaki
82-5650067

ES Nelson Mandela
TEL : 217-30018
山口 晃義
Yamaguchi Akiyoshi
82-5650074

岡村 仁美
Okamura Hitomi
82-5878893

IFP ATOLA
TEL : 21-720956/953
Fax : 21-720951

帯刀 彰子
Tatewaki Akiko
82-3916536

Escola de Pesca
MATOLA
TEL : 21-722371
FAX : 21-722372

宮坂 昌弘
Miyasaka Masahiro
82-3916546

ES de 29. Setembro
TEL : 292-30190
FAX : 293-30187
村西 孝太
Muranishi Kota
82-5326456

河合 勝寿
Kaai Katsuhisa
82-5841188

Hospital Provincial
Inhambane
TEL : 293-20345
FAX : 293-20372
南向 さち子
Nasaki Sachiko
82-6241959

八木沢 利紗
Yagisawa Risa
82-5878896

DPPF Inhambane
TEL : 293-20270
FAX : 293-20946

大内 美枝子
Ouchi Mieko
82-5650076

DDA Inhambane
TEL : 293-20929
FAX : 293-20276

塚原 正泰
Tsukahara Masayasu
82-7277870

DDA Mandlhakazi
TEL&FAX: 282-61029
Sr. Celestino António
Raposo

吉野 正彦
Yoshino Masahiko
82-5955858

IFP QUELIMANE
TEL : 24-213740/4543
FAX : 24-213749

古謝 麻耶子
Koja Mayako
82-5650075

松本 聡
Matsumoto Satoru
82-4058614

ICS QUELIMANE
TEL : 24-214066
FAX : 24-213022

高橋 恵美利
Takahashi Emiri
82-4058615

天池 なほみ
Amaike Naomi
82-5650158

DDA Namacurra
TEL : 242-16524
Dona Octávia
Cel : 82-7138790
村井 茜
Murai Akane
82-7188591

ICS Nampula
TEL : 252-20085/93
FAX : 262-12359

田中 志
Tanaka Kokoro
82-4056227

Casa provincial de
Cultura da Nampula
Dir : 82-6983100
國井 万紗子
Kunii Masako
82-3916545

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

CFS PEMBA
TEL&FAX : 27221584
PBX : 07220113

上村 まや
Kamimura Maya
82-6113174

CFS CHIMIO
TEL : 251-23144
FAX : 251-22340

橋本 賢子
Hashimoto Satoko
82-4056223

佐藤 香織
Sato Kaori
82-3916544

DPE CHIMIO
TEL : 251-22154
FAX : 251-22475
斎藤 肇
Saito Hajime
82-4056222

ES Samora Machel
TEL : 251-22184
FAX : 251-23316
野辺 理恵
Nobe Rie
82-6222945

ES do Dondo
TEL/FAX : 23-950244

ES Samora Machel
TEL : 251-22184
FAX : 251-23316
野辺 理恵
Nobe Rie
82-6222945

Instituto Agrario de
CHIMIO
TEL : 051-221115
FAX : 251-24061

松本 峻
Matsumoto Shun
82-5878892
高野 一馬
Takano Kazuma
82-6222944

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

U. CATOLICA PEMBA
TEL : 27221969/175
Fax : 272-21720

ICS BEIRA
TEL : 23-311055
FAX : 23-311965
icsbeira@teledata.mz

西田 有希
Nishida Yuki
82-3916548

森 千夏
Mori Chinatsu
82-3916541

吉田 由香
Yoshida Yuka
82-5650069

ES do Dondo
TEL/FAX : 23-950244

志和 久恵
Shiwa Hisae
82-5878891

CFS TETE
TEL : 252-20085/93
FAX : 252-20086

増本 文
Masumoto Fumi
82-5650066

IFP ULONGUE
TEL : 252-52007
TEL : 217-14003
(Dir) : 82-4070490

黒田 明子
Kuroda Akiko
82-4056225

余川 達郎
Yokawa Tatsuro
82-5878889

JICA事務所
TEL:258-21-486357,486358
FAX:258-21-486356
mz_oso_rep@jica.go.jp
住所:Av.24 de Julho No.7, 5to andar
勤務時間:08:00 ~ 17:15
昼休み :12:00 ~ 13:15